

事例

地元農産物やジビエを中心とした地産地消と食育の推進 (第8回食育活動表彰 審査委員特別賞受賞)

たかまつ
高松市生活研究グループ連絡協議会（香川県）

高松市生活研究グループ連絡協議会では、昭和32（1957）年から、農村に生きる女性たちによる「かまどの改善」を契機に、多様化する社会における諸課題に対応しながら、郷土料理の伝承や地産地消の推進、食育活動に力を入れて取り組んできました。種まきから食卓までに携わっている農家の女性だからこそ得ることのできる視点で、素材の味を生かしたレシピを考えし、次世代への継承を目指して活動しています。

具体的には、「高松産ごじまん品を中心とした地産地消と食育への取組」をテーマに、高松市内で生産される農産物「高松産ごじまん品」を使用した、新たなメニューの開発に取り組んできました。また、有害鳥獣とされるイノシシやシカのジビエを使用した料理のメニュー開発も継続的に行っており、より多くの方へ高松産ごじまん品やジビエ料理に親しんでもらう機会を作れるよう尽力しています。

そのほか、日常生活で料理に触れる機会が少ない男性や子供たちを対象とした料理体験イベントも開催しています。男性を対象とした「男の料理教室」では、高松産ごじまん品を使用したおせち作りを実践し、郷土料理の伝承を促進しています。また、子供たちを対象とした「親子クッキング」では、親子で料理に挑戦し、料理は楽しいものだと思ってもらえるようなきっかけ作りを提供しています。

活動においては、高松産ごじまん品やジビエをおいしく食べられるメニューを開発することに重点を置いており、多くの方に地元農産物の魅力を発信できるように、今後はSNS等の媒体も活用しつつ、地域との触れ合いを大切にした食育活動を継続し、活動の幅を広げていきます。



ジビエを活用したメニューの講習会



親子クッキングの様子